



シンポジウム開催のご案内

主催：社団法人産業と環境の会

会場：東京国際フォーラム ホールD5

河川等の水環境保全のための 指標・目標に関するシンポジウム

河川等の水環境を保全するために、目標とすべき基準として人の健康の保護に関する環境基準(健康項目)と生活環境の保全に関する環境基準(生活環境項目)の2種類があります。

そして、健康項目の基準達成率は高水準を維持していますが、生活環境項目については、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の3海域(閉鎖性海域)におけるCOD達成率が十分でないため、平成21年度を目標年度とした第6次水質総量規制が実施され、総量削減計画に基づき産業排水対策等の各種の施策が講じられることとなります。

しかしながら、閉鎖性海域では、河川からの流入汚濁負荷量の削減が環境基準達成率に必ずしも反映されていないことや、窒素・磷については削減が難しい物質であるとともに資源として有用物であること、さらに、生態系の保全という観点からはプランクトン等が一定程度必要なのではという指摘(中央環境審議会答申)があること等から、水環境全般を評価できる指標・目標の必要性が強く提唱されてきております。

以上のことから、健全な水循環の確保に資するため、水環境保全に関する知見を有している方や、日頃から水質保全対策に取り組んでいる方々を招へいし、シンポジウムを開催します。

開催日時：2007年12月3日(月) 13:00～17:00(12:30～受付)

参加費：無料

プログラム

- 13:00～13:05 開会
- 13:05～13:45 基調講演 白石順一 環境省 水環境担当審議官 テーマ「今後の水質環境保全について」
- 13:45～14:10 講演 山本佳史 愛知県 環境部技監 テーマ「愛知県における水質環境の保全について」
- 14:10～14:35 講演 藤村直孝 三井化学株式会社 生産・技術本部常務理事安全・環境部長
テーマ「三井化学における取り組みについて」
- 14:35～15:00 講演 篠原秀弘 味の素株式会社 環境・安全部長
テーマ「味の素における取り組みについて」
- 15:00～15:10 休憩
- 15:10～15:50 特別講演 中島 淳 立命館大学 理工学部環境システム工学科教授
テーマ「21世紀の水環境について」(仮)
- 15:50～15:55 休憩
- 15:55～16:55 パネルディスカッション テーマ「水環境保全のための指標・目標について」
- 16:55～17:00 閉会

後援：(申請中)経済産業省、環境省

協賛：(株)IHI、旭化成(株)、旭硝子(株)、味の素(株)、宇部興産(株)、(株)荏原製作所、王子製紙(株)、大阪ガス(株)、鹿島石油(株)、(株)カネカ、関西電力(株)、関西ペイント(株)、九州電力(株)、協和発酵工業(株)、栗田工業(株)、(株)クレハ、(株)神戸製鋼所、JFEスチール(株)、四国電力(株)、昭和シェル石油(株)、昭和電工(株)、新日鉄ホールディングス(株)、新日本製鐵(株)、新日本石油(株)、住友化学(株)、住友金属工業(株)、積水化学工業(株)、第一三共(株)、大日本インキ化学工業(株)、大日本印刷(株)、武田薬品工業(株)、中国電力(株)、中部電力(株)、電源開発(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、(株)東芝、東ソー(株)、東電環境エンジニアリング(株)、東燃化学(株)、東燃ゼネラル石油(株)、東邦ガス(株)、東北電力(株)、(株)トクヤマ、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、日新製鋼(株)、日本化薬(株)、日本製紙(株)、日本電気(株)、日本ペイント(株)、(株)日立製作所、富士フイルム(株)、富士通(株)、(株)ブリヂストン、北陸電力(株)、北海道電力(株)、本田技研工業(株)、松下電器産業(株)、三井化学(株)、三井金属鉱業(株)、三菱化学(株)、三菱重工業(株)、三菱製紙(株)、横浜ゴム(株)(社名五十音順)

このシンポジウムは平成19年度河川整備基金の助成を受けて開催します。

河川整備基金とは 「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力(閣議了解)に基づき昭和63年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方基金委員会等が資金を拠出(寄付)して造成されているものです。
この基金の運用益(利息)から、安全で良好な「河川環境」を目指してよりよい「川づくり」に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。
河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。